

オ 主な施設の概要とそのはたらき [F -]

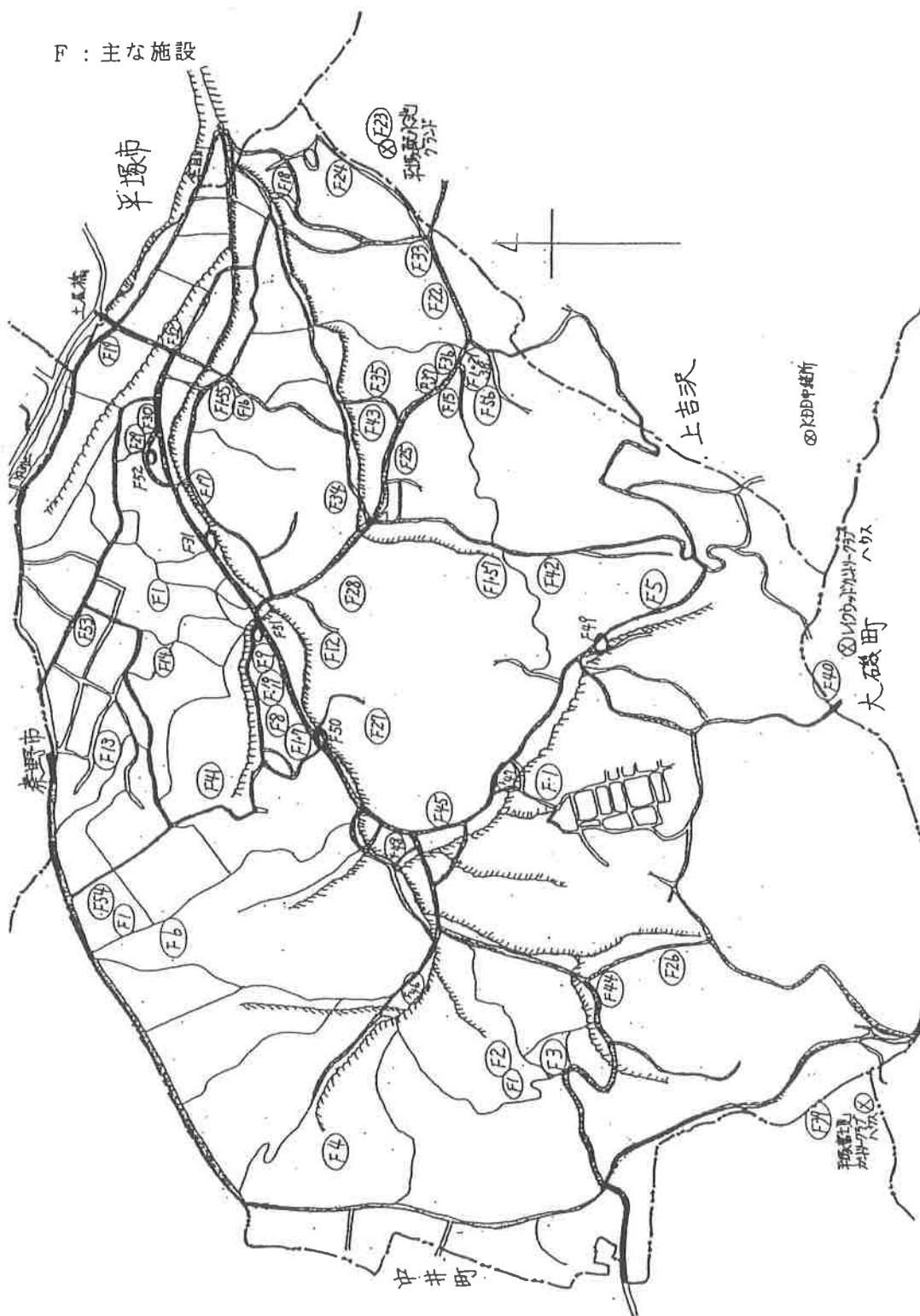
- ・ F - 1 防災行政無線放送所
 - ・ F - 2 愛宕山自然公園
 - ・ F - 3 平塚市七国荘
 - ・ F - 4 平塚市土屋霊園
 - ・ F - 5 平塚市びわ青少年の家
 - ・ F - 6 平塚市遠藤原一般廃棄物最終処分場
 - ・ F - 7 平塚市消防団第17分団
 - ・ F - 8 平塚市立土屋幼稚園
 - ・ F - 9 平塚市立土屋公民館
 - ・ F - 10 土屋スポーツ広場
 - ・ F - 11 平塚市立土屋小学校 (旧)
 - ・ F - 12 平塚市立土屋小学校 (新)
 - ・ F - 13 神奈川県動物保護センター
 - ・ F - 14 ふるさとの森
 - ・ F - 15 平塚市立土沢中学校
 - ・ F - 16 寺分ちびっ子広場
 - ・ F - 17 緑の広場
 - ・ F - 18 三角広場
 - ・ F - 19 土沢水防倉庫
 - ・ F - 20 土屋営農団地
 - ・ F - 21 県警平塚警察署土沢駐在所
 - ・ F - 22 平塚市消防署土沢分遣所
 - ・ F - 23 県企業庁水道局平塚貯水池
 - ・ F - 24 県農業総合研究所 (一部土屋)
 - ・ F - 25 友情の森
 - ・ F 44 ~ 57 自治会館・集会所等 (別表)
 - ・ F - 26 日産車体平塚総合グランド
 - ・ F - 27 社会福祉法人 進和学園職業センター
 - ・ F - 28 神奈川大学平塚キャンパス
 - ・ F - 29 つちや子どもの家保育園
 - ・ F - 30 おおの歯科医院
 - ・ F - 31 はぎわら歯科医院
 - ・ F - 32 鈴木医院
 - ・ F - 33 医療法人社団 清風会
富士見台病院
 - ・ F - 34 松風歯科医院
 - ・ F - 35 社団法人
神奈川県トラック協会平塚総合運動場
 - ・ F - 36 土沢診療所
 - ・ F - 37 社会福祉法人・つちや社会福祉会
つちやホーム・ローズヒル
 - ・ F - 38 湘南農業協同組合土沢支所
 - ・ F - 39 平塚富士見CC
 - ・ F - 40 平塚レイクウッドCC
 - ・ F - 41 ゴルフ練習場「ジャパリ-平塚」
 - ・ F - 42 ゴルフ練習場「グリバル」
 - ・ F - 43 東海大学野球場・望星寮
- [解 説]

1 ・防災行政無線放送所 (F - 1)

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|----------------------------|
| 1 上惣領 | : 愛宕山自然公園 | 5 寺 分 | : 自治会館 |
| 2 遠藤原 | : 蓑島英氏宅
(578番地) | 6 早 田 | : 集会所 (青年会館) |
| 3 小 熊 | : 大乘院墓地付近
(高神山) | 7 人 増 | : 湘南農協土沢支所 |
| 4 上庶子分 | : 消防団第17分団庁舎 | 8 琵琶 | : 岩本光治氏宅
(小山崎3311番地) 付近 |

・昭和33年(1958)11月から、市役所の広報活動のひとつとして超音波無線装置の「声の広報」放送を始めました。放送局は市庁舎2階の放送室で、受信局は119ヶ所(平成9年現在)となっています。出力10W・周波

F : 主な施設



数65.1MHzです。当初は「愛の鐘」などを放送する「行政無線」として運用していましたが、昭和54年（1979）に平塚市が「東海地震強化地域」に指定されたのを機に「防災行政無線」となりました。

放送は、午後4時20分にお知らせを、また、火災発生等非常の場合は緊急放送を流します。「愛の鐘」は、現在一日3回鳴らしています。朝は7時、夕方は月によつて異なり4～9月は午後5時30分、10～3月は午後4時30分、夜は9時に「とき」を告げます。

2 ・愛宕山自然公園 （F-2）

・上惣領の愛宕山（標高116m）に、昭和49年（1974）4月市指定の児童公園として、面積0.74haの雑木林を活かして造成されました。

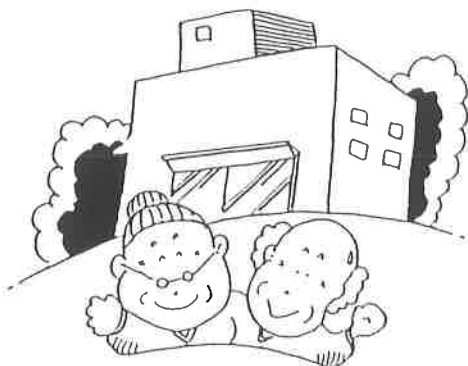
桜・梅・桃を植樹して、今では桜の名所となっています。山上には愛宕神社があり、四季を通して市民の憩いの場にもなっています。

3 ・平塚市七国荘 （F-3）

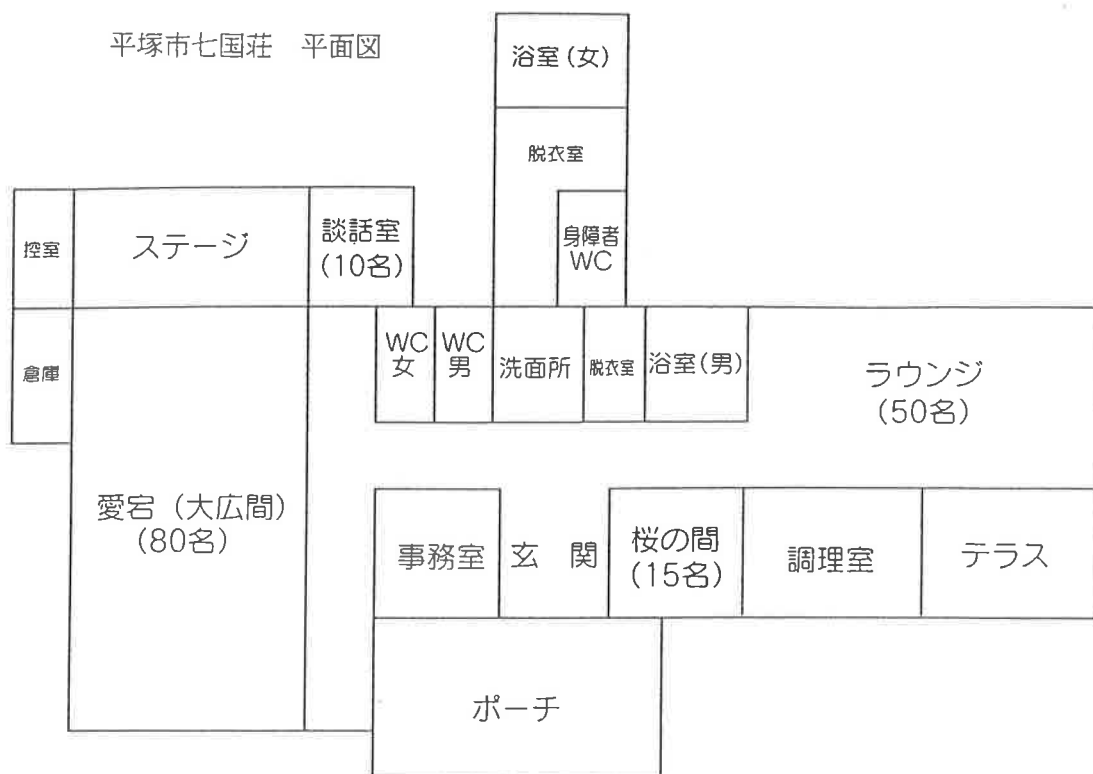
・上惣領（土屋4594番地・電話58-1265）にあり、湘南観光開発（株）のゴルフ場建設の際、地元住民の土地の提供その他の協力に対する感謝の意味で、地元へ寄贈された建物です。当時は鉄筋コンクリート一部木造建。計444.96m²で、地元の上惣領地区振興協議会管理のもとに、地元住民の集会の場として使用されて、その後昭和44年（1969）平塚市の老人保養所として市が借り受けました。昭和63年（1988）11月改修工事に着手し、平成元年（1989）4月11日「平塚市七国荘」としてオープンしました。設備としては、風呂場、広間60畳敷き1室、8畳・6畳各1室、及び娯楽用具等があり、収容定員は100名です。老人会または個人の使用者は月500名程度です。

（事業内容）

高齢化社会に対応し、おおむね60才以上の方々の活動の館として、お年寄りの健康、生活、いきがい及び福祉についての各種相談事業をはじめ、教養・趣味の向上、レクリエーションなどを通じ対象者の心身の健康の回復、保持、増進を図ることとし、さらには各種福祉関係団体の場としての提供を図っています。



平塚市七国荘 平面図



施設概要

- 所在地 平塚市土屋字中川
4594番地
- 改修者 平塚市
- 構造規模 鉄筋コンクリート造り
平屋建
- 改修面積 433.95平方米
- 敷地面積 4.962.83平方米
- 改修着工 昭和63年11月7日
- 竣工 平成元年3月15日
- オープン 平成元年4月11日
- 改修費用 99.372.000円
- 改修工事費 92.042.000円
- 備品費等 4.800.000円
- その他 2.530.000円
- 財源 (県補助金 9.040.000円)
(一般市費 90.332.000円)

平方米

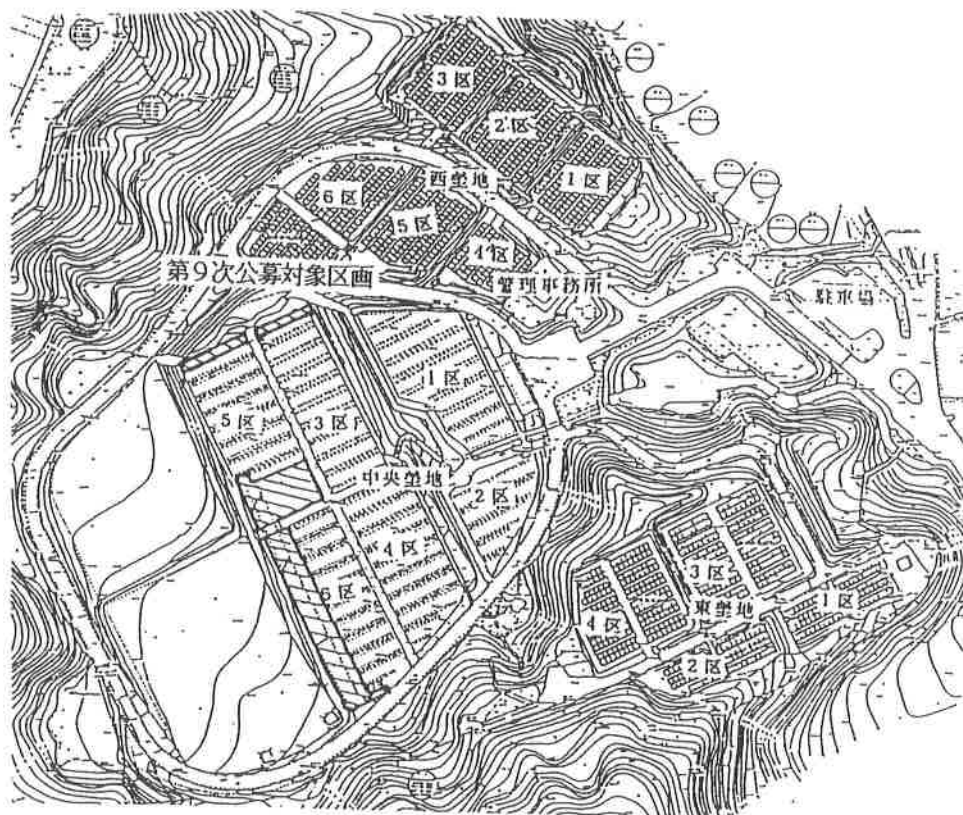
室名	面積	室名	面積
ステージ	32.07	洗面所	9.76
愛宕(広間)	94.16	男女トイレ	16.15
談話室	11.12	身障トイレ	4.67
桜の間	18.00	控室	6.66
ラウンジ	60.78	倉庫	8.90
調理室	23.87	機械室	5.57
浴室(女)	12.87	事務室	21.84
脱衣室(女)	8.65	玄関廊下	
浴室(男)	12.43	ポーチ	79.70
脱衣室(男)	6.75	計	433.95

4 ・平塚市土屋霊園 (F-4)

・惣領分(土屋4300番地・電話58-6900)にあり、面積は103845.20m²です。霊園建設が決定されたのは、本市の人口増加に著しいものがあり、在来の市内の寺院で需要を満たすことが不十分であると予測されたためです。昭和40年(1965)市議会に霊園建設特別委員会が設置され、慎重審議の結果、昭和48年(1973)7月1日霊園建設管理事務所が設けられました。建設現場は、土屋字深谷・黒木沢・清見下で、約10.4haを買収し、約4000基を計画されました。

平成9年(1997)現在、既設墓地2860基、未造成1140基となっています。

平塚市土屋霊園 平面図



5 ・平塚市びわ青少年の家 (F-5)

・惣領分琵琶(土屋2710-1番地・電話59-0871)にあり、昭和54年(1979)9月の定例市議会において、仮称「びわ青少年の家」について公表されました。収容能力は宿泊の場合、宿泊棟60人・キャンプ場80人

(テント10張)・野外炊事場・野外食卓・倉庫・便所・駐車場・キャンプサイト・フィールドアスレチックコース・テニス(バレーボール兼用)コート・広場があります。利用方法としては、青少年の仲間づくり・青少年指導者の研修・小中学校のセカンドスクール・企業等の社員研修などが可能な施設として利活用されます。職員構成は、所長・生活指導・レクリエーション指導・庶務・経理・施設管理職員です。条例施行規則・運営要領を作成し、昭和56年(1981)7月1日開設されました。敷地面積は32775.54m²です。“美しい緑、新鮮な空気、輝く太陽”のもと、思い切りかけ回り、いろんな自然とふれあいながら仲間とあるいは、新しい友と楽しい共同生活を通して、「自主性」「創造性」「協調性」を育み、それぞれの心の中に芽生える新しい何かを発見する。そんなことのできるみなさんの施設です。

平塚市びわ青少年の家 配置図

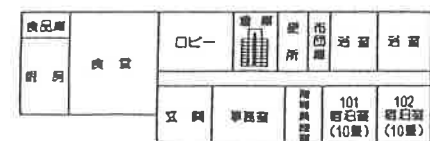


本館(宿泊管理棟)

構造 鉄筋コンクリート造り2階建て

延床面積 825.82m²

1階



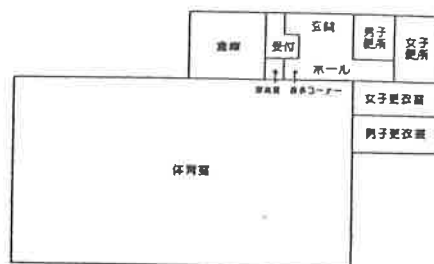
2階



多目的ホール(年金積立金還元融資施設)

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造り平屋建て

延床面積 493.25m²



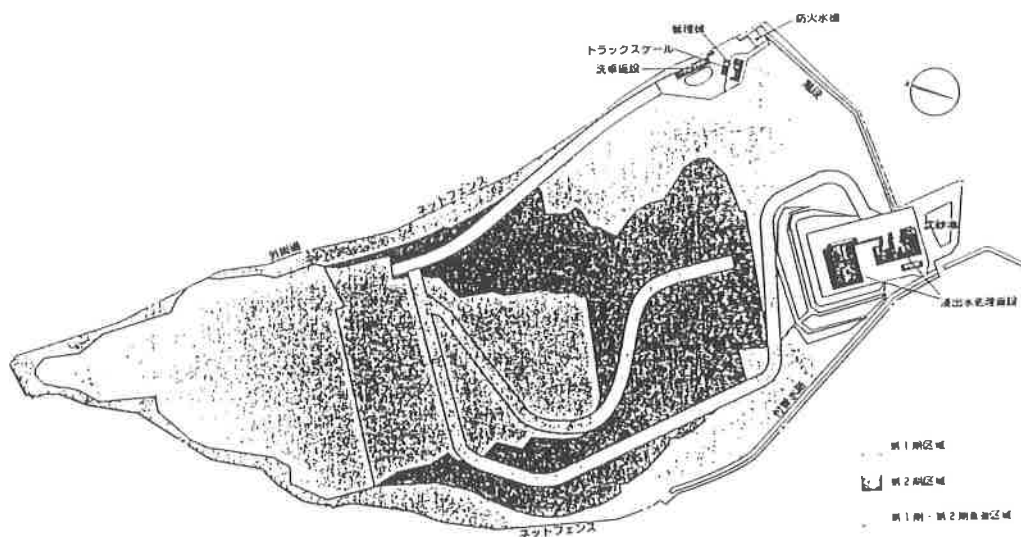
6 ・平塚市遠藤原一般廃棄物最終処分場（F-6）

・遠藤原（土屋585番地・電話58-8466）にあり、整備計画用地56367m²のうち17850m²を対象に第一期事業に取り組みました。工期は昭和57年（1982）7月から昭和59年（1984）3月で、総工費は735239000円でした。

26600m²を第二期事業で取り組み、今後15年間の埋め立て量233000m³を確保するための施設として、平成9年（1997）3月27日第二期工事が竣工しました。

施設の内容は、周辺的环境に十分配慮し、埋立地全面に遮水シートを張り、汚水等の地下浸透による地下水の汚染防止を図っています。更に重金属の捕集装置を備えた高度処理の浸出水処理施設を完備し、埋め立て区域内の汚水を完全処理する近代的な施設として、二次公害発生の未然防止に努めています。

遠藤原一般廃棄物最終処分場
主要構造物の配置平面図



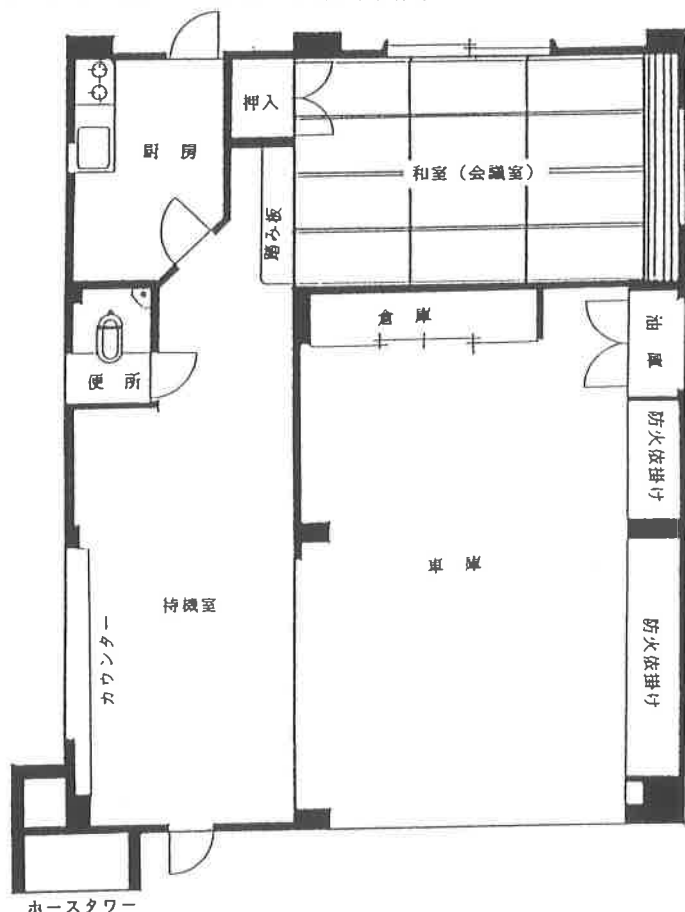
7 ・平塚市消防団第17分団（F-7）

・上庶子分（土屋991-3番地・電話58-1325）にあり、地域住民の生命と財産を守ることを使命として、火災時の消火・救出活動、災害時の救助・援助活動、平常時の防災訓練等の活動をしています。各自治会から選出され

た20名の団員で構成されています。団員各自は、それぞれ職業を持ちながらの任務で、毎月1日・15日の2回、ミーティングや消火機械・救助器具の点検整備を行い、常時活動体制を確保しています。消火機械として、消防自動車1台・可搬式小型ポンプ1台を所有しています。新庁舎が平成9年（1997）3月30日に完成しました。庁舎概要は次のとおりです。

敷地面積	257.75m ²
建物構造	RC造平屋建て（耐火建築物）
建物延面積	92.32m ²
用途	車庫・待機室・会議室・厨房・便所
付帯設備	火の見兼ホースタワー
工事期間	平成8年9月2日～平成9年3月19日

平塚市消防団第17分団 建物平面図



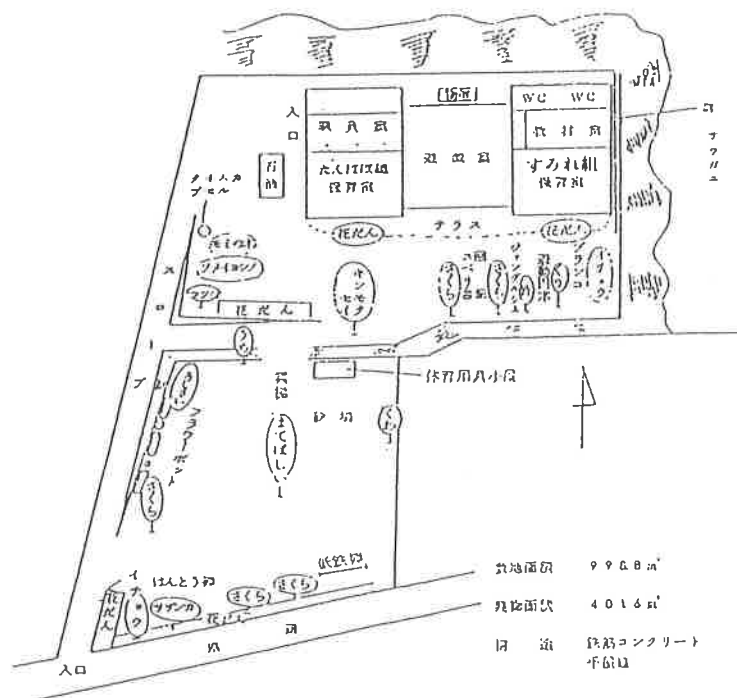
8 ・平塚市立土屋幼稚園 （F-8）

・上庶子分（土屋963番地・電話58-1415）にあり、昭和38年（1963）5月20日に開園しました。土屋地区では昭和28年（1953）～昭和37年（1962）まで農繁季節保育所を開設し、就学前の幼児を保育し

ていました。地域住民の幼稚園開設の署名陳情を重ね、ようやく設置になりました。開園時は2年保育でしたが、園児の増加等により、昭和48年（1973）から1年保育に切り替えられました。その後、地域住民の切なる要望によって、平成9年（1997）4月から市内全域を対象として2年保育になりました。敷地面積は998.8m²・建物面積は401.6m²です。

人間として、調和のとれた心身ともに健康な幼児の育成を目指し、幼児の発達の特性や本園の置かれている地域性を十分考慮して、教育課程を編成し指導を進めています。なお、編成に当たっては、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい活動が展開されるように遊びを中心とした総合的な指導を行いながら、一人一人の特性を理解し、発達の課題に応じた指導を行えるよう留意しながら幼児教育のねらいを達成させています。

市立土屋幼稚園 園舎配置図



9 ・平塚市立土屋公民館 (F-9)

・中庶子分（土屋1046-2番地・電話58-0833）にあり、平塚市では昭和35年（1960）新市建設計画が確定し、公民館の設置に着手しました。土屋は昭和43年（1968）3月31日に設置され、主事（専任職員）によって、地区の実情に添った公民館活動・社会教育活動を展開しています。

昭和63年（1988）10月より、市役所市民課窓口センターの業務が併設され地区住民が大変便利になりました。なお、平成6年（1994）4月より窓口センターの業務が拡大されました。

敷地面積は999.63m²・建築面積は399.09m²・建設費は

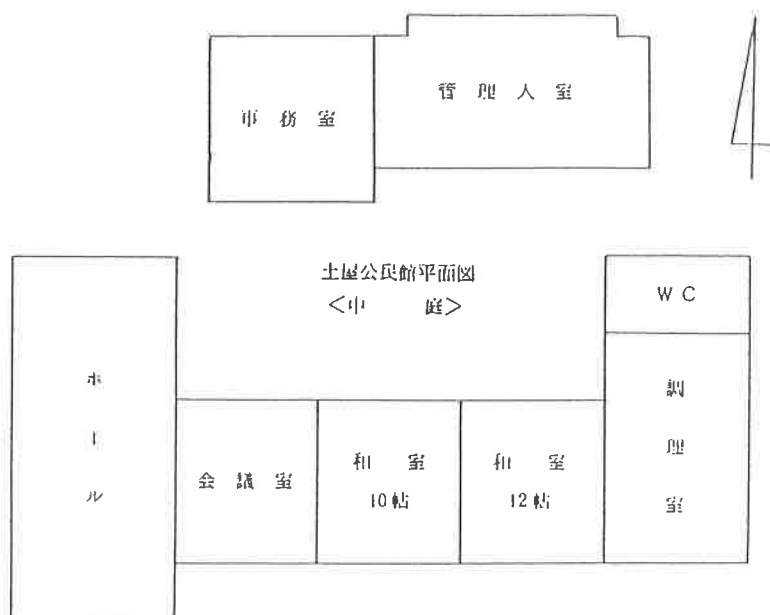
9394000円（用地買収整地は含まず）です。

建物が古く、場所もあり便利でないため、新しい公民館の建設促進の委員会を、平成5年（1993）8月に発足させて促進中です。

（公民館の目的）

公民館は、市町村その他一定の区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的としています。

平塚市立土屋公民館 平面図



10 ・土屋スポーツ広場 （F-10）

・中庶子分（土屋1009番地等・土屋小学校跡地）にあり、地域住民の強い要望により、スポーツ広場として住民の健康増進とふれあいの場として、各団体が活用しています。市が地権者より借用して、土屋自治連合会が管理しています。

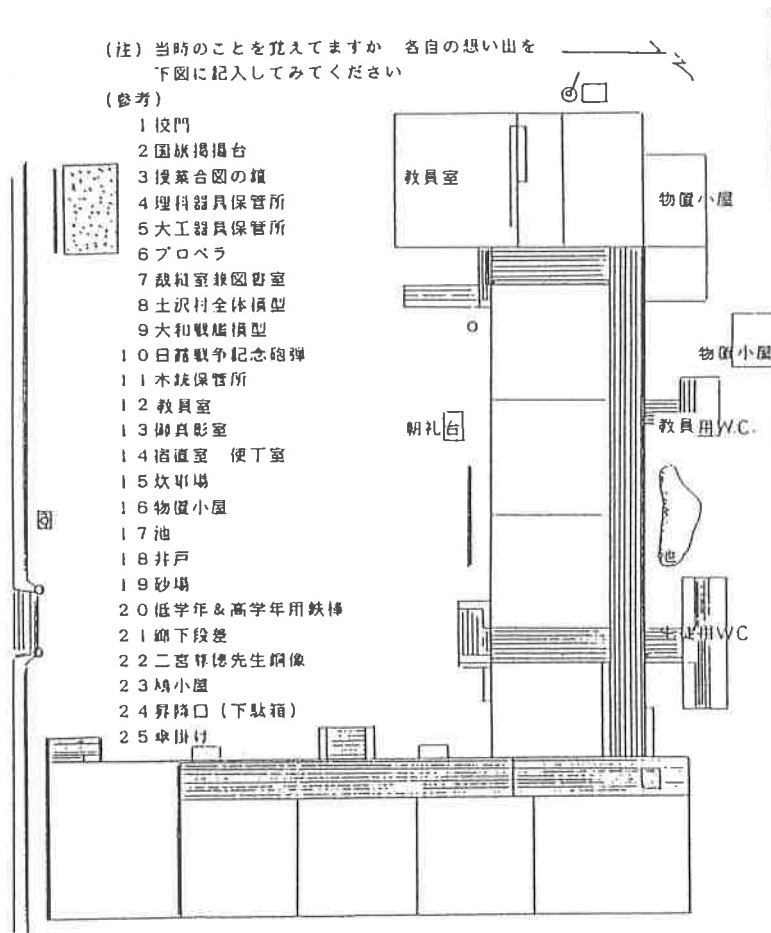
11 ・平塚市立土屋小学校（旧）（F-11）

・明治5年（1872）に学制が施行され、その翌年の明治6年（1873）に土屋村大乘院を仮借して、「温知館学校」を創設しました。これは、地域住民の教育に対する関心の高さの表れと思われます。その後、広川村温知館第一

支校となり、明治9年（1876）土屋学校と改称しました。明治25年（1892）土屋村庶子分八面に校舎を新築し、大乘院より移転しました。明治32年（1899）妙円寺を仮借して高等土屋小学校を設置し、明治41年（1908）高等土屋小学校を尋常土屋小学校に合併して尋常高等土屋小学校と改称しました。大正12年（1923）に土屋尋常高等小学校と改称し、同年9月の関東大震災により大破しました。昭和16年（1941）に土沢村立土屋国民学校と改め、昭和22年（1947）に「6・3制」の実施によって高等科を廃止し、土屋小学校となりました。昭和31年（1956）に平塚市に合併し、校名を平塚市立土屋小学校としました。昭和35年（1960）に給食を開始し、昭和38年（1963）に校歌を制定しました。

昭和51年（1976）5月当時は職員数18人、児童数267人で、敷地面積5019m²・標高45.546m（市都計画下水道水準点）土屋1009番地でした。

昭和15年（1940）土屋尋常高等小学校 校舎・校庭 図



12 ・平塚市立土屋小学校（新）（F-12）

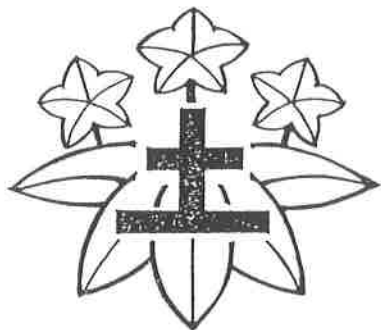
・市災害対策危険地区に指定され、なおかつ校庭等が手狭なため、昭和55年（1980）に惣領分（土屋3004-2番地・電話58-1414）に移転しました。

校地の総面積は25622m²・校舎は本館三階建てで、延べ面積は4232・19m²・付属建物は79・661m²です。本館には普通教室12・特別教室5・その他8の部屋があります。昭和55年（1980）4月10日に新校舎が落成し、工期は昭和54年（1979）6月から昭和55年（1980）3月でした。また、昭和56年（1981）体育館兼講堂・プールも併設されました。昭和55年（1980）4月当時、校長1・教頭1・教諭14・養護教諭1・事務主事1・校務作業員1・児童数315（男161・女154）

平成9年（1997）4月現在

校長1・教頭1・教諭 8・養護教諭1・事務主事1・校務作業員1
・児童数 163

平塚市立土屋小学校 校章とその由来



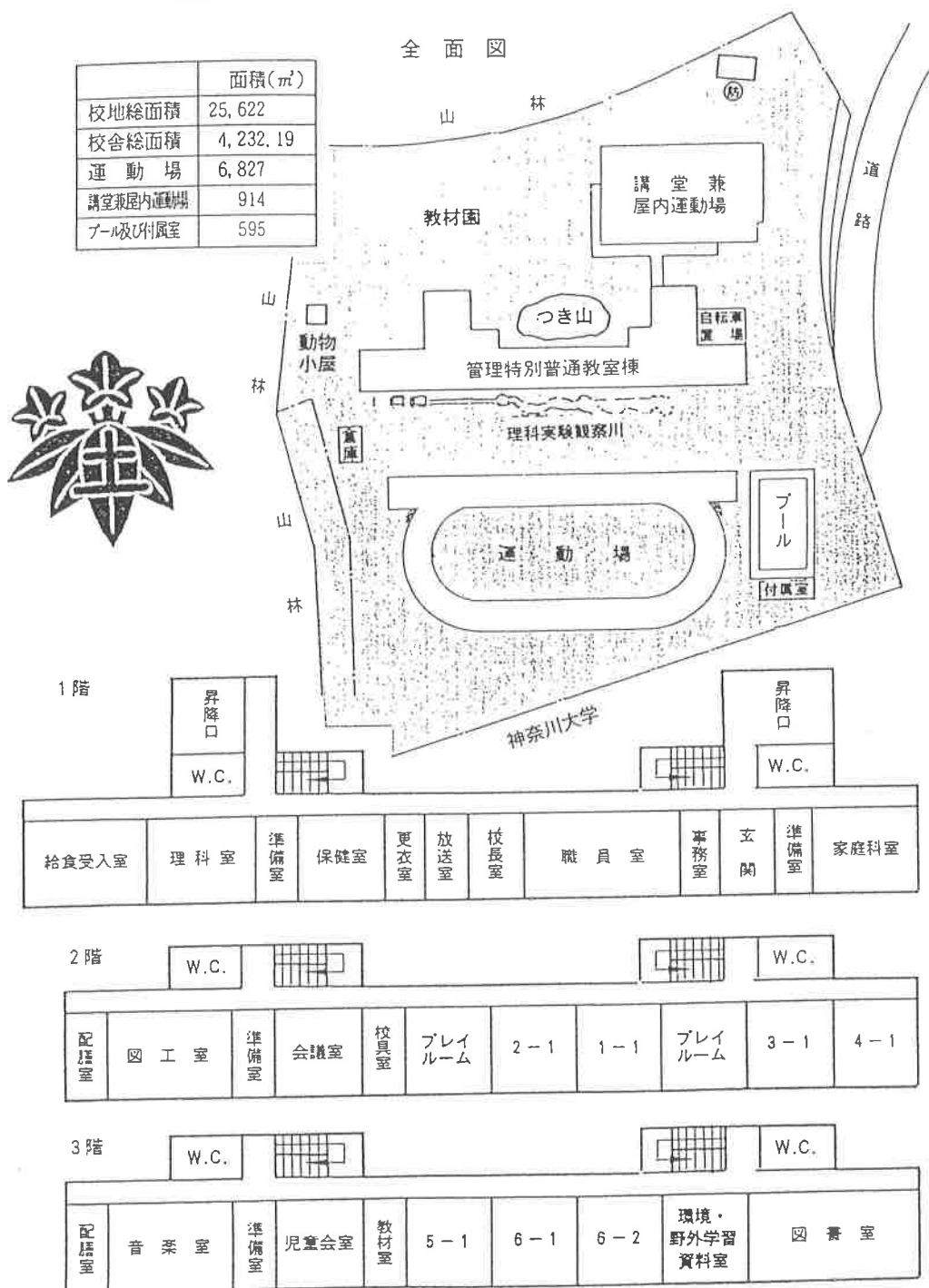
平塚市立土屋小学校 校章の由来

明治6年（1917）6月、小熊大乘院に「温知館」として誕生したのが本校の創設である。時移り、以来百有余年の歴史を経ているが「笹龍胆に土」の校章が制定されたのは、児童に学帽が普及し、徽章が必要になるに及んだ大正6年（1917）に制定されました。

源氏の紋所笹龍胆（ささりんどう）に土屋の「土」をあらわしています。これは、源頼朝に仕えたこの地の武将「土屋三郎宗遠」に由来するものです。

花も実もある源氏の一名将の、誇り高き地として「文と武一知と力」を磨き、「古きを温ね、新しきを知る」建学の理想を象徴しています。

平塚市立土屋小学校 校地・校舎・施設 配置図



土屋小学校校歌

戸川 貞雄 作詞

箕作 秋吉 作曲

♩ = 120



さ ん ど う の ふ る き れ き し に と ほ
ぜ さ わ の や か み の う め か く お さ と げ こ ゆ
こ り は た か し あ あ 一 つ 一 ち や 一 た
め ろ は は きて な し あ あ 一 つ 一 ち や は
の し くら つ どれ う ま な び の に わ に ち
え ぞ あ る ほ こ て う ま か の み い ず み に ま
ち が う れ し の た こ え ず の ぞ か ん と な が り か
も れ そ た え て ん を を と ん と かり て た

土屋小学校校歌

一、笹龍胆の 古き歴史に

誇りは高し ああ土屋

楽しく集う 学びの庭に

乳牛のこえ 長閑なり

二、風さわやかに 梅かおるさと

心は清し ああ土屋

大空晴れて 丘はみどりに

流れはたえず 座禅川

三、高き希望の 七国峠

夢ははてなし ああ土屋

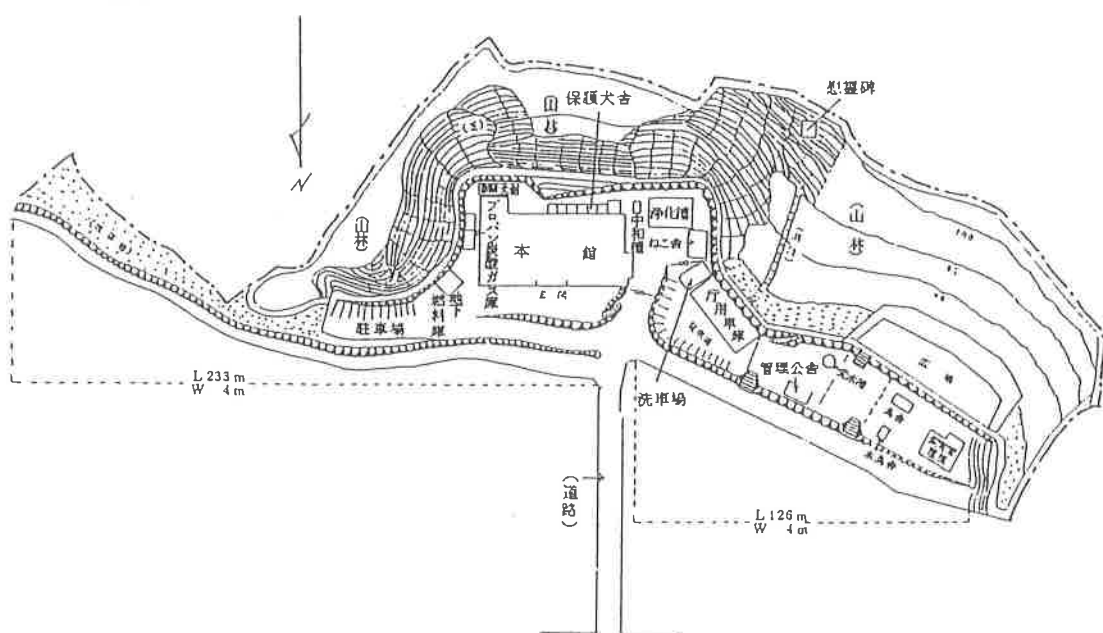
栄ある母校 文化の泉

守りそだてん 手をとって

13 ・神奈川県動物保護センター (F-13)

・小熊(土屋401番地・電話58-3411)にあり、昭和47年(1972)に設置されました。昭和46年(1971)3月3日に着工し、昭和47年(1972)3月2日に完成しました。21474m²の敷地には、犬の管理棟・犬霊塔・遊園地などが作られています。管轄区域は、横浜・川崎・横須賀を除く県下全域です。業務内容としては、野犬等の収容・動物の適切な飼育方を指導・動物愛護の育成・小動物とのふれあい教室・犬ねこその他の小動物の病気の調査や研究を主な業務としています。

動物保護センター建物配置図



14 ふるさとの森 (F-14)

・小熊(土屋1158番地)にあり、大乘院の所有地で、面積は902m²です。平成3年(1991)3月3日より大庶子分自治会が管理運営しています。桜・あじさい・さつき等の植え込みがされ、「みんなの森」として可愛がられようと、努力中です。なお、敷地内には「水呑地藏」があります。

・人増(土屋2244番地・電話58-6680)にあります。

昭和22年(1947)3月に学校教育法・教育基本法(6・3制)が施行され、土沢村民の熱心な師弟愛の発露に基づき、万難を排し「自分たちの子どもは、自分たちの土地で教育しよう」という意気が高揚して、土沢村の単独設置で昭和22年(1947)5月5日に開校しました。開校当時は、土屋小学校と吉沢小学校にそれぞれ間借りして、授業が進められました。終戦後のため、校舎を建設する資材も十分ではなく、旧日本海軍の建物を買収して運搬し、校地の整地等は村民・青年団・消防団・父母等の「勤労奉仕」により建設しました。建設場所は、土屋と吉沢の地理的条件によって、中間の人増として、標高85mの「字鴻之巣」の丘と決定し、昭和22年(1947)8月起工式、10月上棟式、翌昭和23年(1948)3月16日に落成式を挙行了しました。当時、中郡下の中学校で独立校舎を二階建てで造ったことは、村民・父母・職員それに生徒も皆誇りであったと同時に、他校の羨望的でした。

昭和26年(1951)3月18日に校歌が制定されました。この校歌は、市内でも自慢できる内容の濃い校歌で、周辺が雑木林に囲まれた緑多き自然の宝庫「鴻之巣の丘」に相応しい「自由と平和」を詩った歌です。

昭和31年(1956)9月30日に、土沢村は平塚市に合併して、「市立土沢中学校」と改称しました。

昭和32年(1957)12月11日に、校旗の伝達式がありました。「校章」は「笹龍胆(ささりんどう)」に「土沢中」の文字が入っています。

昭和34年(1959)11月11日に、初代校舎の老朽化により、新校舎(木造二階建・1228m²)が完成しました。

昭和42年(1967)2月21日に、体育館兼講堂が、昭和48年(1973)8月10日にプールも完成しました。

昭和62年(1987)1月に、第二代木造校舎の解体工事が開始され、昭和63年(1988)3月15日には、第三代新校舎(鉄筋コンクリート造・4階建・4025.97m²)が完成しました。

平成5年(1993)6月1日に、コンピュータ室が完成し、翌平成6年(1994)6月9日に、米・ローレンス市の中学生が来校して交流会を行いました。

平成9年(1997)11月1日には、創立50周年記念を祝い、校歌碑を建立しました。50回生までの卒業生は、4122名です。

校地面積は、19817m²(6005坪)で、市都市計画下水道水準点N0.88は81.188mとなっています。

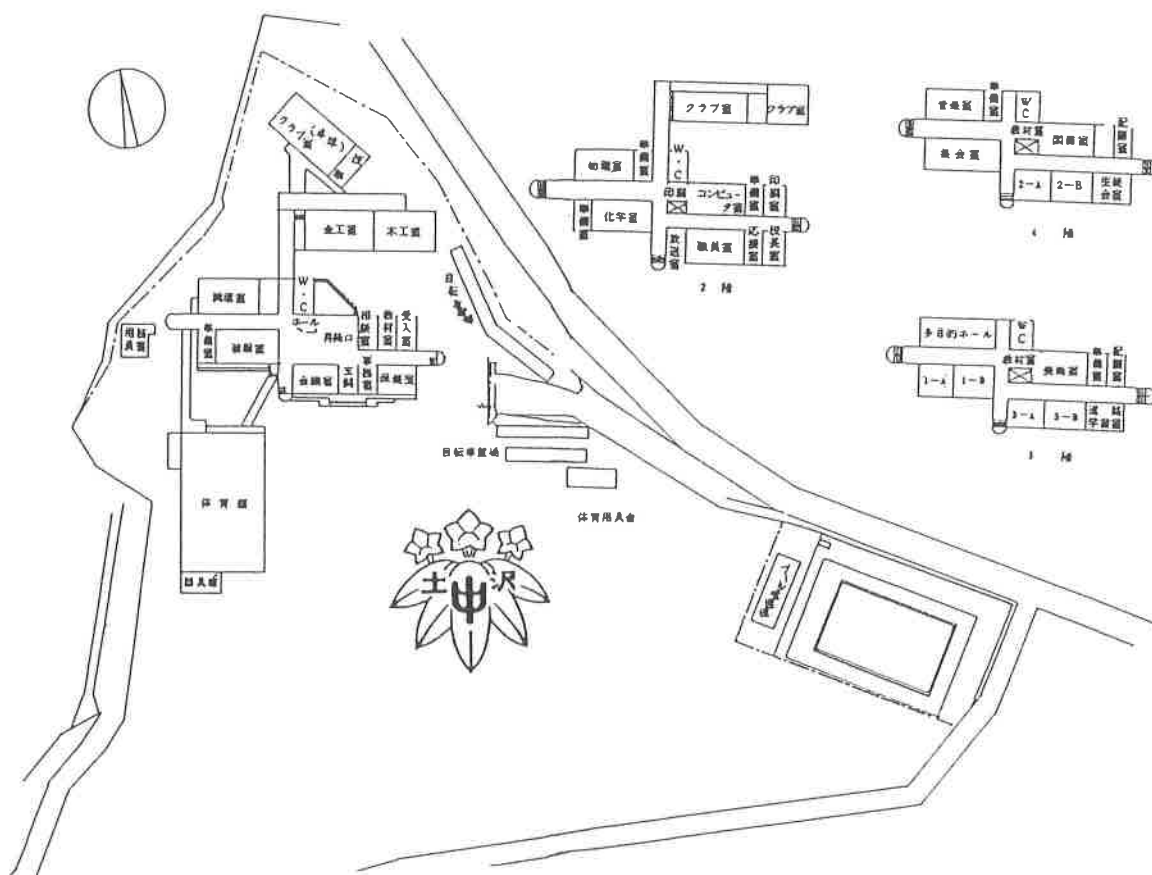
平成9年(1997)4月現在の職員数は18人、生徒数は199人です。

平塚市立土沢中学校 校章とその由来

・校章は、土沢地区の特色である竹林の竹がとり入れられたこと、また、土沢地区には平氏や源氏の流れをくんだ子孫がいると伝えられていることから、竹は武を意味し、武士の子孫をあらわしている。きわめて潔癖であり、純朴な土沢の健児たちが誠意をもって、若い大きな夢に向かい自由と平和の理想のために努力するよう、その姿を図案化したものです。



平塚市立土沢中学校 校庭・校舎の配置図



土沢中学校校歌

作詞 本荘千代子

作曲 鈴木徳一郎

軽快に (♩ = 104)

くも わ け— ば— くもの — な か に
 わ か き— ねが— い みち て— ありけ り
 は な さ— け— ば— は な の — な か に
 わ か き ゆ— め— さき て— ありけ り
 あ あ う つ く し き つち さ— わ— の
 ひ ろ き の や ま の う え に ま な— ぶ

一、雲涌けば	雲の中に	二、風吹けば	風の中に	三、空はるか	光る中に
若き希い	みちてありけり	若き歎喜	吹かせてありき	憧れゆく	平和の理想
花咲けば	花の中に	木々鳴れば	林の中に	丘はるが	重なる上に
若き夢咲き	咲きありけり	若き想い	湧き立ちゆけり	若き命	自由を唄う
ああ美しき	土沢の	ああ清らかな	土沢の	ああ静かなり	土沢の
ひろき野山の	上に学ぶ	巷さかりし	山に学ぶ	真理無言の	山に学ぶ

(昭和二六、三、一八制定)

16 ・寺分ちびっ子広場（F-16）

・寺分中（土屋字根下1422番地1）にあり、面積707m²を市が借り受け地域に「ちびっ子広場」として提供されています。ブランコニ基、鉄棒一連、砂場等が設置され地域住民のいこいの場、ふれあいの場となっています。

祭礼には、神輿の行在所となります。自治会が管理をしています。

17 ・緑の広場（F-17）

・寺分上の碁打橋付近にあり、座禅川の改修工事に伴う余剰地の再利用広場です。水田耕作用の揚水ポン場（昭和50年（1975）3月完成）が設置され、周りには常緑樹や落葉樹等の多くの樹木が植樹され、登校する児童の情操教育に大きく役立っています。祭礼には、神輿の行在所となります。「上寺分みどりの会」が、ボランティア活動として管理しています。

18 ・三角広場（F-18）

・寺分下（土屋字鷺坂1548-1番地）にあり、県企業庁より平塚貯水池の一部三角形の広場を借用しています。ブランコ一基、スベリ台一基、仮設倉庫一棟が設置されています。仮設倉庫には防災用具等が格納されています。樹木も多く地域住民のいこいの場、ふれあいの場となっています。自治会が管理をしています。

19 ・土沢水防倉庫（F-19）

・寺分（土屋1263番地付近）にあります。

江戸時代から現代まで約400年間、金目川の洪水は大きなものだけでも40回で、10年に1回の割合で発生し、大雨による被害を与えています。江戸時代9回、明治時代6回、大正時代3回、昭和にはいって2回あります。

このため、村人達は組合組織を作って水防に努めてきました。明治2年（1869）の記録によると、「金目川通り28ヶ村水利組合」「五ヶ郷用水組合」「九ヶ郷用水組合」等があり、洪水との戦いが今も続いています。

この倉庫には、洪水時に備えて緊急対策がとれる資材・機材等が配備されています。

“堰”の数は約50ヶ所あり、水田は850ha余りにものぼっています。このうち平塚市では、12ヶ所の堰で760haも耕作しています。

金目川の歴史は「米作り」の歴史でもあり、それは今でも変わりはなく、金目川の水によって潤された水田からとれる米を、生計の糧としています。

20 ・土屋営農団地（F-20）

・神奈川県は昭和47年度(1972)から農業振興の県単位事業として、営農団地の整理事業を進めていますが、平塚市では先の岡崎に次いで、土屋の事業が54年度(1979)から三ヶ年計画でスタートしました。寺分に4棟の温室・遠藤原に4棟の温室(計6600m²)、農道整備・堆肥センター・諸機械類が導入されました。総事業費1億5000万円(県50%・市20%・地元農家30%)で、参加農家54戸、対象農地は34.3haでした。三ヶ年計画の内容は次のとおりでした。

昭和54年度 温室4棟・付帯施設

昭和55年度 温室4棟

昭和56年度 農道整備・堆肥センター・共同利用機械

なお、県営農団地事業の目的は、温室等の近代施設や大型農業機械の導入、堆肥センターの設置、農道整備等を取り組み、集約的施設園芸の実現をはじめ、農作業の省力化、畜産農家と園芸農家の有機的結合の確立を図ることにあります。

21 ・県警平塚警察署土沢駐在所 (F-21)

・人増(土屋2192番地・電話58-7259)にあり、明治26年(1893)土沢村が治安確立の観点から駐在所の必要性が認められるようになり、大磯警察署管轄下として発足しました。昭和22年(1947)に国家地方警察神奈川県本部中西地区警察管轄下となり、秦野警察署と改正されました。昭和31年(1956)に管内の土沢村が平塚市に統合されたことにより、同時に平塚警察署管轄下となりました。当駐在所では、土沢地区の防犯・交通安全等地域の安寧に日夜努めています。設置年月は明治26年(1893)3月27日(大磯警察署土沢駐在所として発足)。敷地面積380.92m²・建物面積26.92m²で、現在の建物は昭和52年(1977)11月29日に建て替えられました。

22 ・平塚市消防署土沢分遣所 (F-22)

・人増(土屋2149番地・電話58-2228)にあり、平塚市消防署の遠隔地への派遣所として、土沢地区に設けられた分遣所です。常時、市消防署の署員2名が駐在して、消防自動車1台を有しその任に当たっています。

23 ・県企業庁水道局平塚貯水池 (F-23)

・上吉沢の向原にあり、県下の上水道の供給基地としての配水池があります。ここでは、常時140000m³の水が確保できるようになっており、貯水された水は自然流下方式で、平塚・大磯・二宮に配水されます。配水池の建設工事にあたり、文化財(向原遺跡)の調査や、金目川沿いに土屋橋から佐の橋経由で鷺坂を通ったルートの農道の拡幅工事を行い、工事用道路を設定しまし

た。地下に、7基の大型配水池を設置して、地上にはスポーツ広場として、野球場・サッカー場等が設置され、市民のスポーツ広場として開放しています。その面積は80446.69m²もあり、地元の土沢中学校では、ここで毎年11月にはマラソン大会を行っています。

配水池全体面積 A=80446.69m²

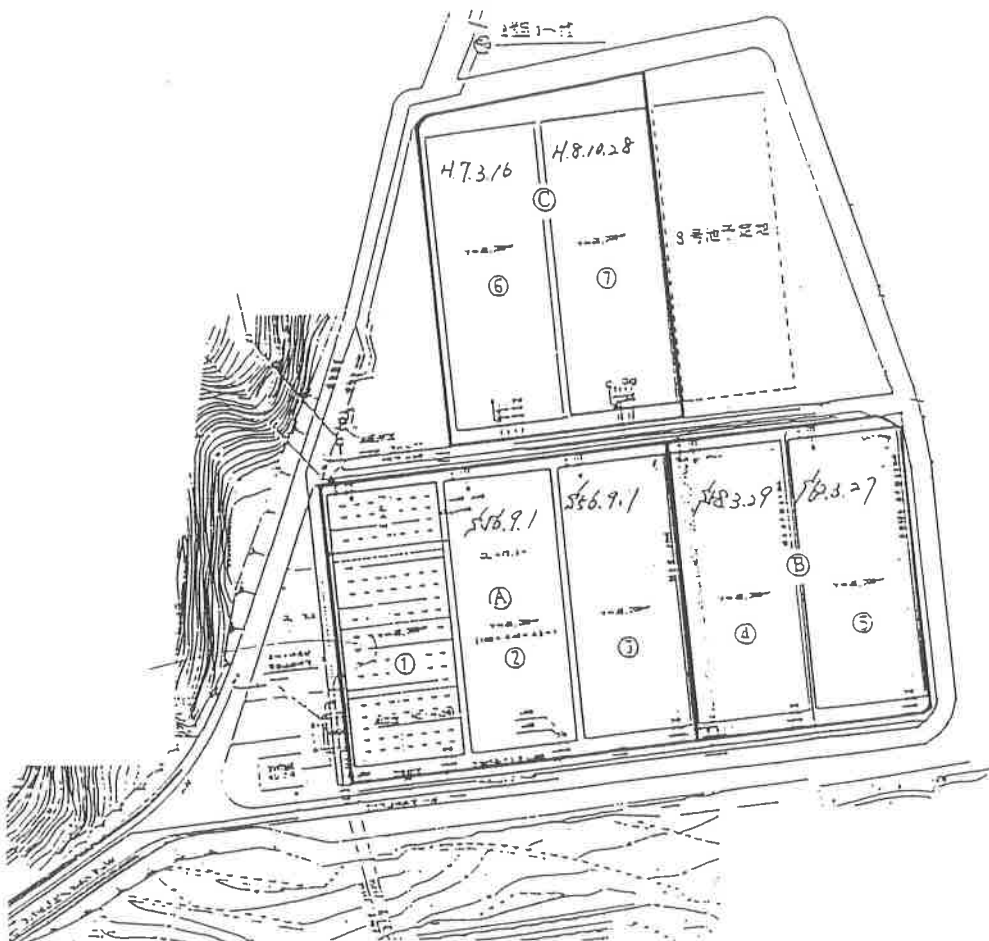
配水池上部利用状況

A	上部利用 (多目的広場)	A=12018.70m ²
B	上部利用 (自由開放広場)	A=10999.00m ²
C	上部利用 (憩いの広場)	A=16000.00m ²
	その他の面積	A=41428.99m ²
	(計)	(A=80446.69m ²)

配水池完成年月日

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ①昭和55年(1980)2月28日 | ② ③昭和56年(1981)9月1日 |
| ④昭和58年(1983)3月29日 | ⑤ 昭和62年(1987)3月27日 |
| ⑥平成7年(1995)3月16日 | ⑦ 平成8年(1996)10月28日 |

平塚配水池平面図

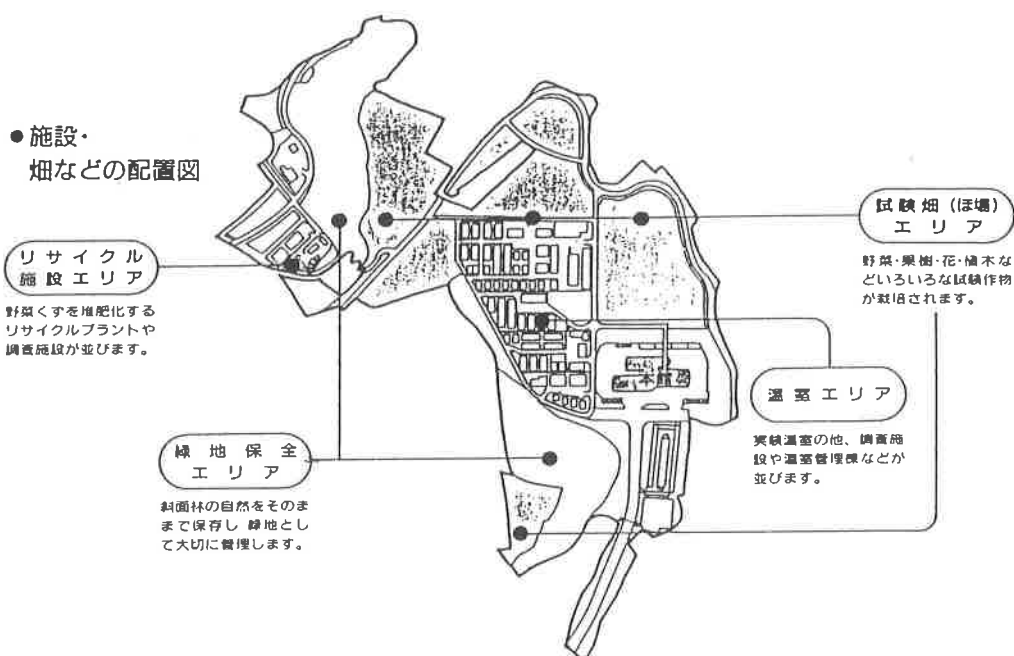


2 4 ・ 県農業総合研究所（一部土屋）（F-24）

・吉沢（上吉沢1617番地、電話58-0333）にあります。

県は明治29年（1896）7月、横浜に農作物の試験研究を目的として、農事試験場を創設し、その後県内の各地に農業試験場を開設しましたが、行政組織規則の一部改正により、各試験場を統合して、平成4年（1992）4月に「かながわ農業を支える技術開発センター」として、県農業総合研究所をこの地に開設しました。この研究所は管理部・企画調整部・経営情報部・生産管理部・生産技術部・農業環境部があります。

また、県内には他に3つの試験場と1つの検査場があります。敷地面積196959m²の中に、本館・露地野菜研究ほ場・果樹研究ほ場・緑化樹研究ほ場・飼料樹研究ほ場・保存緑地・駐車場があり、建物面積は22346.04m²です。このほ場の一部が土屋にあります。県ではこの研究体制によって、産業として自立し、都市・環境に寄与する農場の実現を目指して、日夜研究開発をしています。



25 ・友情の森 (F-25)

・早田(土屋2262番地付近)にあり、平塚市ボーイスカウト・ガールスカウトの活動の場として、いろいろな活動に利用されています。

44~57 ・自治会館・集会所等(別表) (F-44~57)

・各集落毎の自治活動をするうえで、その集落に属する自治会館・公民館・集会所(以下、自治会館等という)は、重要な働きを持っています。

この自治会館等は、各自地区の集会や常会の場として、また各団体のコミュニティの場・ふれあいの場として、あるいは各講や自治区単位の祭礼等の場としても利用されています。

このように私たちが地域社会で生活していくなかで、最小自治区単位の活動は、極めて重要であり、自治会館等を積極的に利用していくことによって、より向上性のある地域づくりができ、ひいては土屋全体における自治会の発展につながると思います。

土屋における各自自治会の自治会館等は、次のとおりです。

地区名	会館等名	[F-]	所在地
上 屋 中 川 下 屋 中 手 中 入	上惣領公民館	F-44	土屋4682番地付近
惣領分	青年会館	F-45	土屋3103番地
上 谷	上谷部落公民館	F-46	土屋4067番地付近
八 坂 下	八坂下公民館	F-47	土屋3305番地付近
協	協 公 民 館	F-48	土屋3156番地付近
琵琶	琵琶公民館	F-49	土屋2750番地付近
上庶子分	上庶子分自治会館	F-50	土屋 982番地付近
中庶子分	中庶子分自治会館	F-51	土屋1042番地付近
下庶子分	下庶子分自治会館	F-52	土屋1222番地
小 熊	小 熊 自 治 会 館	F-53	土屋 350番地付近
遠藤原	遠 藤 原 集 会 所	F-54	土屋 531番地付近
寺分上(1区)	寺分自治会館	F-55	土屋1420 -6~7番地
寺分中(2区)			
寺分下(3区)			
寺分耕地中(4区)			
人 増	人 増 自 治 会 館	F-56	土屋 2492-1 番地
早 田	青年会館	F-57	土屋2324番地付近

26 ・日産車体平塚総合グラウンド (F-26)

・上惣領 (土屋4744番地・電話58-8204) にあり、昭和61年 (1986) 10月1日に完成しオープンしました。

施設は、野球場・テニスコート (4面) ・クラブハウス・管理棟等があります。

27 ・社会福祉法人 進和学園職業センター (F-27)

・惣領分 (土屋2967番地・電話58-6681) にあります。

昭和33年 (1958) 6月に、県における民間精神薄弱児施設の第1号として、平塚市出縄に精神薄弱児施設「進和学園」が開設されました。昭和40年 (1965) には、成人精神薄弱者の処置に応じて、更生を必要とする指導及び訓練にあたり、昭和48年 (1973) 青年寮対象者に自力の生活意欲を助長し社会復帰の道を開くため、授産施設の建設に着手して、昭和49年 (1974) 9月1日に、進和学園「職業センター」 (授産施設) を開設しました。

現在は、社会就労センターとして、入所70名・通所60名の利用者が、自動車部品の組み立て等の作業をしながら、「働くよろこび・生活意欲の開発増進・自主自立への準備と実践等」をめざしています。また、緊急一時保護とデ-サービス機能もあります。

28 ・神奈川大学平塚キャンパス (F-28)

・惣領分 (土屋2946番地・電話59-4111) にあり、平塚市西部丘陵地の約310000m²の校地に61号館 (一般教育棟) ・62号館 (理学部研究棟) ・体育館・厚生棟及び付属施設を設け、経営学部 (国際経営学科) と理学部 (情報経営学科、化学科、応用生物科学科) の2学部を設置しています。平成元年 (1989) 4月4日竣工式と開校式を行いました。

また、神奈川大学では、地域とのふれあいを大切にしており、毎年土屋地区ふれあい夏祭りの会場提供・学園祭に地元太鼓連の参加・地元小学校の児童の一日大学生体験等積極的に地域との交流を続け、地域密着型の大学をめざしています。

施設

(完成年)

・61号館――3階建延床面積	9815m ²	平成元年
・62号館――2階建延床面積	5040m ²	平成元年
・67号館――3階建延床面積	7602m ²	平成3年
・体育館――2階建延床面積	5094m ²	平成元年
・厚生棟――2階建延床面積	2645m ²	平成元年

付属施設

・サッカーラグビー場

・野球場

- ・50mプール・
 - ・クラブ室 16室
 - ・駐車場 (1000台)
 - ・テニスコート (4面)
 - ・400mトラック陸上競技場
 - ・土屋の杜-自然緑地
- ・クラブハウス — (クラブ室18室・ミーテングルーム4室
リハーサル室2室・和室5室)
(購買部)

神奈川大学平塚キャンパス校舎配置図



29 ・つちや子どもの家保育園 (F-29)

・下庶子分(土屋164番地・電話58-1380)にあり、昭和57年(1982)家庭保育福祉として保育をはじめました。昭和58年(1983)小規模保育所として市の認可を受け、「つちや子どもの家保育園」としました。昭和62年(1987)法人認可を申請し、県と市の指導を受けました。

敷地面積は598.34m²・建物73.40m² 木造平家スレート葺です。

30 ・おおの歯科医院 (F-30)

・下庶子分(土屋161-3番地 電話 58-1181)にあります。
昭和62年(1987)12月16日に開業しました。

31 ・はぎわら歯科医院 (F-31)

・下庶子分(土屋1172-6番地 電話 59-5802)にあります。
平成4年(1992)7月1日に開業しました。

32 ・鈴木医院 (F-32)

昭和22年(1947)9月24日寺分下(土屋1709番地)に開業しました。その後昭和26年(1951)寺分上(土屋1242-3番地)に移転して営業し、昭和63年(1988)寺分4区(土屋1282-3番地・電話58-1131)の現在地に建設しました。
内科・小児科・耳鼻咽喉科があります。

33 ・医療法人社団 清風会 富士見台病院 (F-33)

・人増(土屋1645番地、電話58-0186)にあります。昭和42年(1967)12月14日に開院し、診療科は神経科・精神科・内科(老人性痴呆症)があり、第1～7病棟まで350床(老人病棟43床含)の規模です。敷地面積は17095m²(5180坪)で、病棟・グラウンド・テニスコート・バレーコート・農耕園芸用地等があります。

34 ・松風歯科医院 (F-34)

・早田(土屋1956番地・電話59-3531)にあります。
昭和62年(1987)1月15日に開業しました。

35 ・ 社団法人神奈川県トラック協会平塚総合運動場 (F-35)

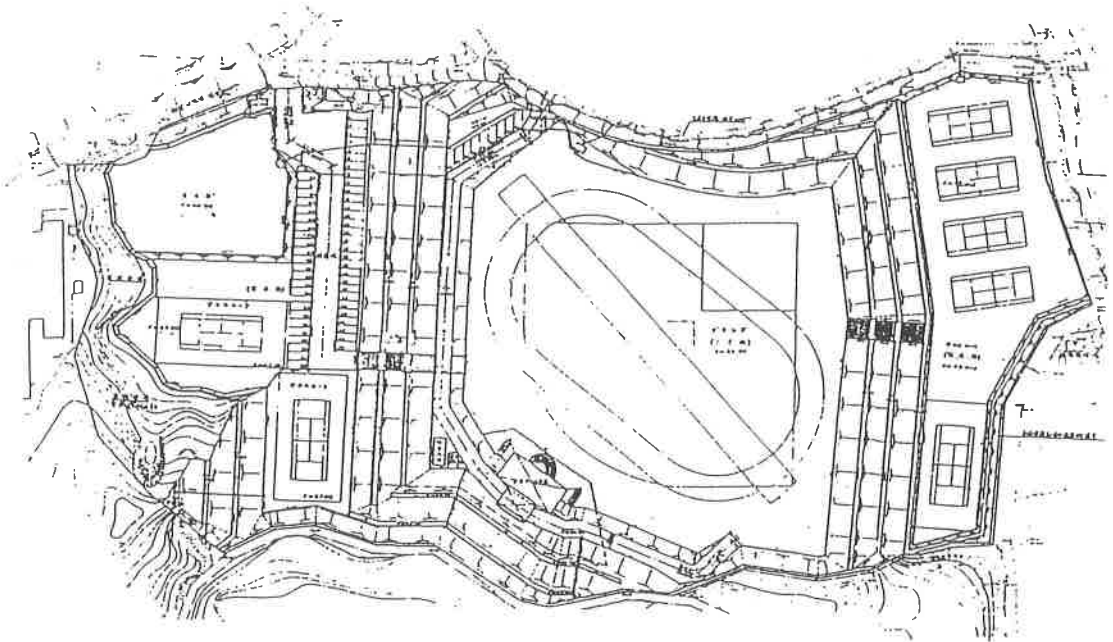
・ 人増字上三笠 (土屋2101番地) にあります。平塚市が一般廃棄物処理場として、擁壁工事約100,000千円を投じ、固定資産税処置二分の一として施行した事業です。その跡地に、敷地面積38,360m²の運動場が建設されました。

この運動場は、運輸事業振興助成交付金事業の一環として、トラック運輸事業に携わる従業員の福祉施設として、昭和62年(1987)5月17日に竣工しました。

施設は、クラブハウス(1階には事務所・ホール・ロッカー室・シャワー室、2階には食堂・トレーナー室・会議室・和室、地下1階には緊急物資倉庫)と運動場(野球、サッカー等多目的グラウンド・全天候型テニスコート7面・子供の遊び場等の緑地広場・60台駐車可能な駐車場)があります。

利用希望者は、利用月の2か月前の1日から15日までに直接にトラック協会本部へ申し込み、利用者の決定は毎月25日までに抽選で決めます。利用料金は、平日と土日祝、また会員と会員外ではちがいます。詳細は神奈川県トラック協会交付金事業部(電話045-471-5511)へ問い合わせるようになっています。

敷地内の施設



36 ・土沢診療所 (F-36)

・土沢地区は無医村でありましたが、地域住民の要望により、当地区に昭和18年(1943)に診療所が開設されました。現在は、人増(土屋2197番地・電話59-0573)にあり、昭和41年(1966)3月1日に移転しました。敷地面積は150m²で、建物面積は57m²です。

内科・小児科・外科があります。

初代医師 昭和18年(1943~1951) 堀江季四郎医師

2代医師 昭和41年(1966)3月1日~ 鈴木 義郎医師

3代医師 昭和49年(1974)3月1日~ 田津原廣康医師

4代医師 平成 9年(1997)7月1日~ 永楽 仁医師

37 ・社会福祉法人 つちや社会福祉会 つちやホーム・ローズヒル(F-37)

つちやホーム

・人増(土屋2196番地・電話58-6677)にあり、昭和49年(1974)4月に軽費老人ホーム〈つちやホーム〉として事業を開始しました。

(設置の目的)

この軽費老人ホームは老人福祉法に基づき、社会福祉法人「つちや社会福祉会」の運営する施設です。

身寄りのないお年寄りや、激しい社会の変動によって、家族と同居の困難になったお年寄り、あるいは住宅事情などにより家族と同居しにくいお年寄りのため、老後の安住の場所として低額な利用料で、心ゆたかな生活を送って頂けるよう設けられた老人ホームです。

つちやホーム 概要

設置主体ー社会福祉法人つちや社会福祉会

施設の種別ー第1種社会福祉事業、軽費老人ホームA型

定 員ー50名

職 員ー施設長、事務員、指導員、寮母、看護婦、
栄養士、調理員、医師(嘱託)

敷地面積ー5913.83m²

建物の構造及び面積ー鉄筋コンクリート3階建、一部平家 1609.40m²

ローズヒル・ローズヒルケアセンター

・人増(土屋2196番地・電話58-6677)にあり、平成4年(1992)2月に特別養護老人ホーム〈ローズヒル〉として事業の開始が認可されました。平成4年4月老人デイサービスセンター〈ローズヒルケアセンター〉開所。平成5年4月老人在宅介護支援センター〈ローズヒルケアセンター〉開所。

(設置の目的)

老人福祉法に基づき、サービスを必要とする者が、心身ともに健やかに育成さ

れ、または社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるとともに、その環境、年齢及び心身の状況に応じ、地域において必要なサービスを総合的に提供されるように援助する施設です。

ローズヒル・ローズヒルケアセンター 概要

設置主体ー社会福祉法人つちや社会福祉会

施設の種別ー第1種社会福祉事業・第2種社会福祉事業

定員ーローズヒル 50名（重度30名・一般20名）・ショートステイ 20名
ローズヒルケアセンター デイサービス15名・入浴サービス 7名（1日平均）

職員ー〈ローズヒル〉施設長・事務員・生活指導員・寮母・介助員
看護婦・栄養士・調理員・医師（嘱託）・PT・OT（嘱託）
〈ローズヒルケアセンター〉生活指導員・相談員・ホームヘルパー・寮母
介助員・看護婦・調理員・運転員

敷地面積ー5913.83m²

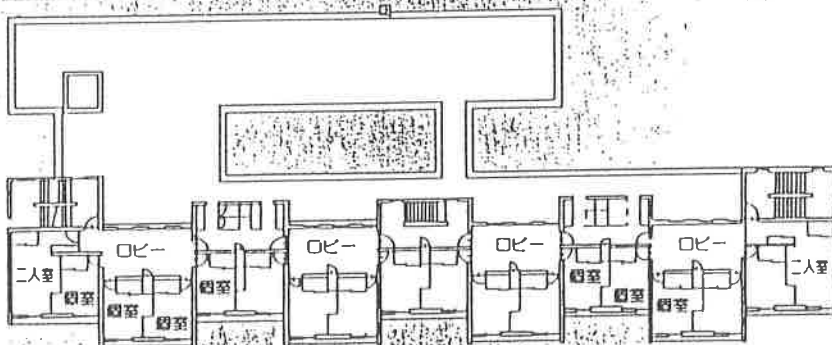
建物の構造及び面積ー鉄筋コンクリート3階建、3247.93m²

つちやホーム 平面図

1F 平面図

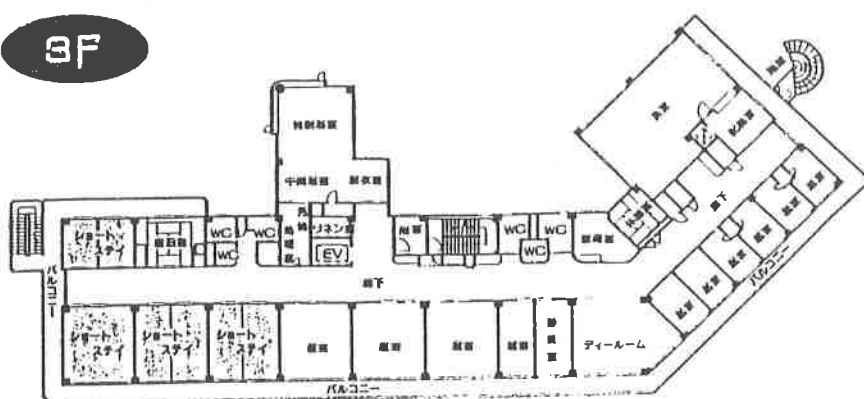


2,3F 平面図



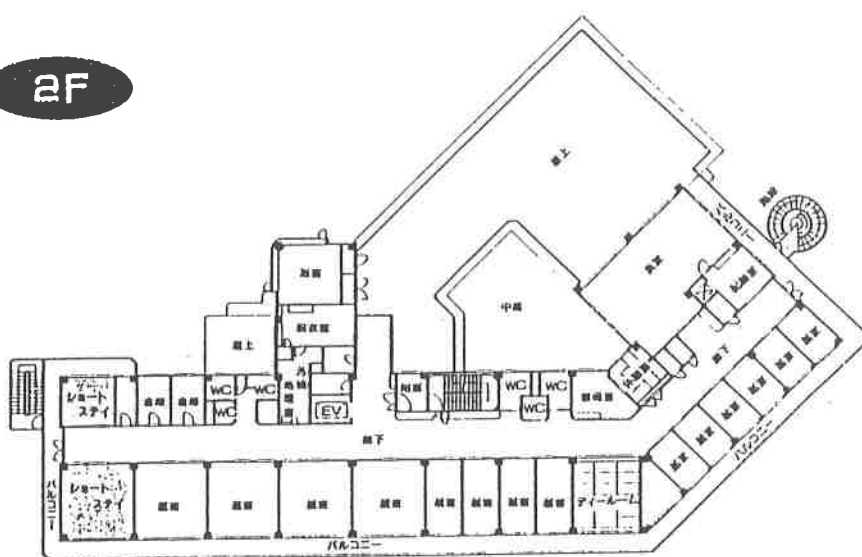
ローズヒル 平面図

3F



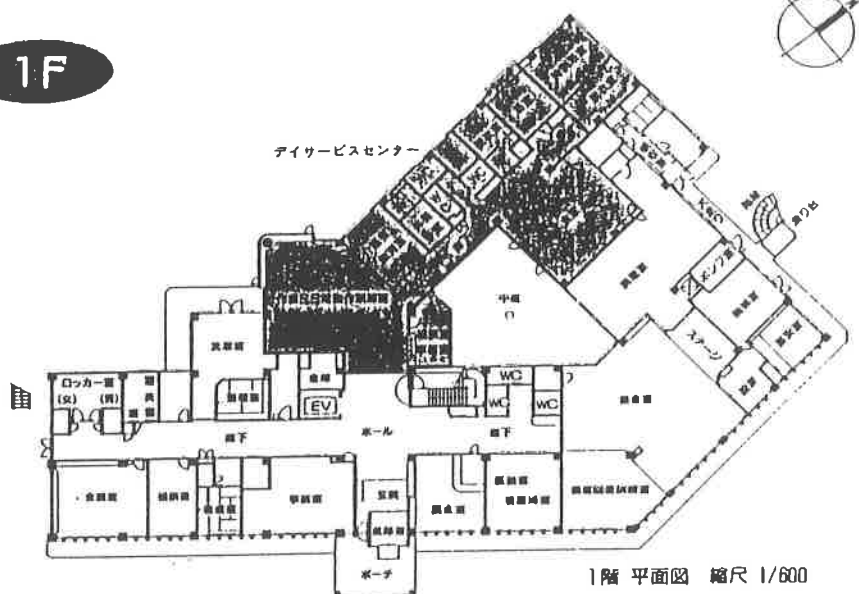
3階 平面図

2F



2階 平面図

1F



1階 平面図 縮尺 1/600

38 ・湘南農業協同組合土沢支所 (F-38)

・人増(土屋2498番地・電話58-0012)にあります。

昭和22年(1947)11月に農業協同組合法が制定され、昭和23年(1948)4月22日土沢村農協が設立されました。昭和37年(1962)土沢農協は、秘話個別付有線放送電話装置を設置しました。その後、昭和41年(1966)3月市内7農協が合併して「平塚市中央農業協同組合」がスタートしました。平成3年(1991)7月1日新生「湘南農業協同組合」(JA湘南)として次代幕開けのスタートをきりました。

JA湘南第2次3か年プラン(平成7年度～9年度)

1. 人と自然にやさしい活力ある『農業づくり』をすすめます。
2. ふれあいある、いきいきした、快適な暮らしの『地域づくり』をすすめます。
3. 存在感と活気あふれる『JAづくり』をすすめます。

39 ・平塚富士見CC (F-39)

・平塚富士見CCは、昭和40年(1965)にオープンしました。レストハウスは、中井町にあります。コースは土屋にまたがっています。昭和37年(1962)にオープンした平塚CCはこの前身です。電話・(0463-71-0771)

40 ・平塚レイクウッドCC (F-40)

・平塚レイクウッドCCは、昭和45年(1970)にオープンしました。レストハウス横には、社鷗山・宝篋印塔があります。電話・(0463-72-1150)
(湘南観光開発(株)二宮町一色1705-1)

41 ・ゴルフ練習場「ジャンボリー平塚」(F-41)

・上庶子分(土屋946-1番地・電話58-9000)にあり、昭和64年(1989)12月16日オープンしました。

42 ・ゴルフ練習場「グリーンパール」(F-42)・

・早田(土屋2418番地・電話58-4712)にあり、昭和48年(1973)9月15日オープンしました。

43 ・東海大学野球場・望星寮 (F-43)

・早田(土屋2223番地・58-6700)にあり、昭和54年(1979)オープンしました。